

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	A-162	15-078 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
10-y Risks of Death and Emergency Re-admission in Adolescents Hospitalised with Violent, Drug- or Alcohol-Related, or Self-Inflicted Injury: A Population-Based Cohort Study. 暴力、薬物、飲酒、自傷に関連する負傷により入院している青年の10年間死亡または再入院		
執筆者		
Herbert A, Gilbert R, González-Izquierdo A, Pitman A, Li L.		
掲載誌		
PLoS Med. 2015 Dec;12(12):e1001931. doi: 10.1371/journal.pmed.1001931.		
キーワード		PMID
薬物 飲酒 自傷 入院 死亡 10年予後		26714280
要旨		
<p>目的： 暴力、薬物、飲酒、自傷に関連した外傷で入院した青年にとって、入院期間は、より有害な行動に進むことを防ぐための「教育可能な時期」とされる。教育介入をうけた青年は将来のこれらの損傷をより避けることができることが期待される。事故負傷で入院した青年の10年間の死亡・再入院を比較した。</p> <p>方法： イングランドの National Health Service のデータに基づき、1997年から2012年までの期間に10歳から19歳であり、暴力、薬物、飲酒、自傷などとの関連した外傷により緊急入院した333,009人、事故により入院した649,818人を対象とした。 Kaplan-Meier 生存曲線と COX 回帰により、10年間の死亡・再入院を検討した。</p> <p>結果： 暴力、薬物、飲酒、自傷などとの関連した外傷で入院した男子の64人に1人、女子では137人に1人が死亡し、男子では40.5%が女子では54.2%が再入院した。18-19歳で再入院の割合は高くなった。事故による外傷で入院した者と比較して暴力、薬物、飲酒、自傷などに関連した外傷で入院した者は10年死亡(女子: 年齢調整ハザード比 1.61, 95% CI 1.43-1.82; 男子: 2.13, 95% CI 1.98-2.29), と10年再入院(女子: 1.76, 95% CI 1.74-1.79; 男子: 1.41, 95% CI 1.39-1.43)ともにハザード比が有意に高かった。暴力、薬物、飲酒、自傷などに関連した外傷で入院した者の中では、複数の理由に該当するものほど、死亡と再入院の割合が高かった。</p> <p>結論： 暴力、薬物、飲酒、自傷に関連する外傷により入院した青少年は退院後にさらに外傷により死亡・再入院することが増えてきている。将来のこれらのリスクを下げるための検討が必要である。</p>		